



平成30年度鳴門教育大学小学校英語教育センターシンポジウム  
—新学習指導要領を踏まえた小学校外国語教育のあり方—

本年度の小学校英語教育センターシンポジウムを、平成30年10月13日、徳島市内のシビックセンターホールにて開催しました。小学校の先生方を中心に、中学校や教育委員会の先生方および大学院生など、県内外から多くの参加者（103名）がありました。

今回のシンポジウムでは、新学習指導要領のもと、小学校中学年において外国語活動が、高学年において教科としての外国語が、1年と半年後には全面実施されるという背景をふまえて、「新学習指導要領を踏まえた小学校外国語教育のあり方」をテーマに、ご登壇の先生方から、その具体的な方向性や、事前に準備すべきことや解決すべき課題等についてお話いただき、ご参会の先生方と共有することを主旨としました。

まず、文部科学省の直山木綿子先生に基調講演として「新小学校学習指導要領における外国語教育のあり方を見据えて、今、取り組みたいこと」と題してお話いただきました。Small talkの実演からはじまり、次期学習指導要領の施行に備え、「言語活動を通して」の意味の理解、小中高連携の一層の促進、教師の英語力の向上の必要性について、とても分かりやすくそのポイントを示してくださいました。私個人的には、直山先生が最後に述べられた「本物の英語」という言葉が特に印象に残っており、small talkをはじめとする言語活動は「本物の英語」によって行われなければならないという直山先生からのメッセージであると受け取りました。

続く、先駆的な実践報告（シンポジウム）では、福井県勝山市の成器南（せいきみなみ）小学校の北川宇子先生と北郷（きたごう）小学校の平林育美先生、本県美馬市の江原北小学校の小角総志先生が、新学習指導要領を念頭においた先駆的な取り組みについて、実践的な見地から具体的にご報告されました。教育委員会や大学との連携体制、担任が主導する授業への移行の体制、読み書きの指導などの具体的事例を通じて、私たちそれぞれが置かれている教育現場において、何をしていくべきかを考える機会になりました。また、ご登壇の先生方が共通に感じておられた教師の英語力に関わる問題についても、今後対応すべき課題であるにご参会の先生方と共通理解することができたと思います。

本小学校英語教育センターも、今回のシンポジウムにおいて共有させていただいた貴重なお話や実践事例をふまえながら、徳島をはじめ四国の先生方とともに、小学校の外国語教育をもり立てていきたいと考えております。ご登壇の先生方には、貴重なお時間を割いて徳島までお越しいただき、有益なお話をしていただきましたことに、心から感謝申し上げます。そして、ご参会の先生方にも、お忙しい中、これからはじまる小学校外国語教育について、ともに理解を深め、また、課題を共有していただきましたことに、心より感謝申し上げます。

（山森 直人）

13:30～13:40 開会  
挨拶 鳴門教育大学 理事 大石 雅章

13:40～14:40 基調講演  
【新小学校学習指導要領における外国語教育の在り方を見据えて、今、取り組みたいこと】  
文部科学省初等中等教育局 教科調査官 直山 木綿子 氏

14:50～15:50 パネルディスカッション  
【児童の「伝えたい」「話したい」を実現するために教師が意識していること】  
福井県勝山市立成器南小学校 教諭 北川 宇子 氏  
福井県勝山市立北郷小学校 教諭 平林 育美 氏

【新学習指導要領本格実施に向けた美馬市の外国語教育】  
美馬市立江原北小学校 教諭 小角 聡志 氏

16:00～16:50 フロアとの質疑応答  
16:50～16:55 閉会  
挨拶 鳴門教育大学小学校英語教育センター所長 山森 直人



講演を行う  
直山 木綿子 教科調査官



フロアとの質疑応答の様子

平成30年度鳴門教育大学小学校英語教育センターポットラックセミナー第1弾  
—新しい小学校外国語教育成功への秘訣～小学校に求められる「読むこと」「書くこと」とは～—

平成30年8月18日（土）に、本学地域連携センターにおいて、平成30年度小学校英語教育ポットラックセミナー第1弾『新しい小学校外国語教育成功への秘訣～小学校で求められる「読むこと」「書くこと」とは～』を開催しました。「ポットラック」とは、食べ物を持ち寄って開くパーティーを意味し、本セミナーでも、その名の通り、参加者が、小学校外国語教育に対する考えや実践、課題や悩みなどを持ち寄り、共有しながら今後の方向性を探ります。

今回は、昨年同様、公立小学校への外国語活動導入時に旗振り役として尽力された前文部科学省教科調査官で大阪樟蔭女子大学の菅 正隆先生のご講演とともに、新学習指導要領を踏まえて「読むこと」「書くこと」への先行的な取組を進めておられるお二人の先生方から実践報告をいただきました。後半の参加者全員によるトークセッションでは、グループ毎に登壇者を交えての活発な質疑応答や意見交換が交わされ、全面実施に向けての方向性や課題を共有・明確化しました。

参加者からは「外国語教育の今後の見通しや、今求められていることが分かり、とても参考になりました。また、トークセッションでは、登壇者の方々から疑問に対するお応えを直接聞いて学びの多い時間となりました」「最後のグループに分かれての質疑の形式はとてもよかったですと思いました。もっと多くの方に参加して欲しいと思いました。菅先生のお話はもちろん、お二人の先生方の実践もよく分かりました。本当にありがとうございました」などの声が寄せられました。（佐藤 美智子）



講演を行う 菅 正隆先生

平成30年度 鳴門教育大学小学校英語教育センター  
小学校英語のワークショップ

- ・「教室英語で教師力アップ！～教室英語の使い方～」（講師：山森 直人）

平成30年6月8日の夕刻、90分間の日程で、「教室英語で教師力アップ！～教室英語の使い方～」と題するセッションを担当しました。本セッションの目的は、「(1)自分自身のこれまでの教室英語の使用状況（あるいは考え方）をふり返るとともに、(2)小学校外国語における教師の教室英語使用（特に、Small Talk）の意義と方法を理解し、(3)そのトレーニングを通して、自分自身の教室英語力の向上を図る。」ことにありました。特に、次期学習指導要領において、小学校高学年の外国語において実施することになっているsmall talkについて、どのように備えるか、また、自身の課題は何かを考えてもらうことをポイントとしました。平日ご勤務時間後の開催ではありましたが、10名の先生方が、とても積極的に教室英語使用のトレーニングに参加してくださいました。小学校の外国語教育も、次期学習指導要領にもとづき、早期化、教科化といった新しいステージに展開していきます。教師に求められる英語使用のあり方も、教室英語表現を覚えるという段階から、児童との柔軟な英会話が求められるという、より発展的な段階へと移行していきます。それに備えるために、どのような研修の場を提供すべきか、私自身ももっと勉強しなければならないと考えています。（山森 直人）

- ・「移行期間の授業づくりに活用できるアクティビティー・歌」（講師：佐藤 美智子 ・喜多 容子）
- ・「新教材を活用した授業づくりの工夫」（講師：佐藤 美智子 ・喜多 容子）

平成30年度、小学校英語のワークショップを2箇所各2回開催いたしました。

5月11日と18日は、附属小学校において、6月22日と29日は鳴門教育大学小学校英語教育センターにおいてそれぞれ行いました。金曜日の夜にも関わらず、小学校で外国語学習に携わる多くの先生方のご参加をいただきました。その中には、遠く由岐町から参加してくださった外国語支援員の方がいらっしゃいました。

ワークショップでは、移行期間における小学校外国語学習についての概要をお伝えし、その後、明日からの授業ですぐに活用できる様々なアクティビティーや歌を紹介しました。また、参加者のみなさんにグループでマイクロティーティングにも取り組んでいただきました。先生方の外国語学習における意気込みが感じられる90分のワークショップとなりました。

参加された先生方からは、「今年、初任者なので、外国語学習で活用する多様なアクティビティーを教えてくださいいただき大変勉強になった。」や「模擬授業で他のグループの発表も見ることができ、教材との出会いは多様であると実感した。このようなワークショップを定期的にして欲しい。」など、ポジティブなフィードバックをいただくことができました。今後も、小学校外国語学習に携わる先生方のお役に立てるように、研修会を続けていきたいと思っております。（喜多 容子）